あけまして おめでとうございます

昭和59年1月1日

年頭のごあいさつ

横越村長
浅見良一

明けましてお目出度うございます。ここに新春を迎えるに当り村民各位のご清福とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

村民各位の暖かいご支援により、昨年の五月、村長に就任いたし、村政の円満な運営と伸展を第一として取り組んで参りました。お陰をもちまして大過なく越年することが出来ました。これもひとえに村民各位のご協力の賜と心から感謝申し上げます。

時代は、まさに厳しい経済不況の中で村財政も未曽有の危機を迎えておりますが、これを乗り越え、村民の暮しと自然と産業が調和した新しい村づくりを推進する所存であります。

今年は当面の事業として、役場新庁舎の建設をはじめ、小杉保育園の建設や、新農業構造改善事業の導入による木津・二本木地区に梨の集荷所と集落センターの建設、木津・川根谷内を結ぶ農免道路の設置など、その他継続事業の小阿賀橋、農村モデル事業、下水道事業の促進、商工会館の建設援助等々、数多くの事業を予定しております。

しかし極めて厳しい財政事情でありますが完成に向けて村民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げまして年頭のごあいさつとします。

今年はネズミ年

灰色でなく明るく良い年を

今年は十二支の〝一番手〟ネズミの年です。

十二支にはトラとかタツとか立派な動物も多いのに、なぜネズミがトップバッターなのか。これは昔、中国で時刻や方角を表わすのに用いた子（し）、丑（ちゅう）、寅（いん）……の十二の方位に、それぞれ動物を当てはめたことによるものです。

ネズミは、齧歯（げっし）目ネズミ科に属する哺乳類。上下のあごにそれぞれ一対の大きな門歯のあるのが特徴で、これは終生伸び続けます。

子供の乳歯が抜けると「ネズミの歯になーれ」と高く放り上げたりするのは、リス、ヤマアラシもそうですが、齧歯動物の門歯が丈夫なのにあやかろうというものです。

南極など一部の地域を除き地球上に広く分布、生息するネズミは、その種類約千八百にも及ぶといわれています。

繁殖力が強いのは、ネズミ算という言葉があることからも分かります。例えば、種類によっては一度に二十匹近くも産むことがあり、その子どもも五十日前後で成育して、また子どもを産む――ネズミの数は、都市ではほぼ人口と同数、田舎ではその二～三倍といわれています。

数が多く、農作物や食料品を食い荒すことから、ネズミの〝評判〟はよくありませんが、半面、縁起がいいとして尊ばれている例も少なくありません。

特に白ネズミは、昔、大黒様の使者といわれ、吉兆とされていました。一方「古事記」には、ネズミが火の中からオオクニヌシのミコトを助け出す話しが出ています。

また、「年寄りとネズミのおらぬ家に、ろくなことはない」という地方もあります。これは、「ネズミがいなくなると火事になる」とか、ネズミは「火事の三日前に逃げ出す」「三年いないと火事になる」などという言い伝えと関係がありそうです。〝評判〟の良い悪いにかかわらず、昔から、人間にとってネズミは身近な存在であったことが分かります。

ところでネズミ色という言葉、最近ではあまり使われなくなりました。グレーが一般的です。

ちなみに、流行色についての調査、研究を行っている日本流行色協会によると今年の色調つまり、グレイッシュ・カラー。明るい灰味をもった色ということですが、ネズミ年が明るい良い年でありますように。

12月定例議会

昭和57年度決算認定

監査員に長瀬一夫氏を選任

十二月定例議会が十二月二十日から二十七日まで八日間の会期で開かれ、昭和五十七年度一般会計の決算認定と四つの特別会計決算認定、それに職員の給与に関する条例の一部改正など四件、昭和五十八年度一般会計・特別会計補正予算、監査委員の選任など二十六議案が提案され、すべて原案通り可決・承認されました。

また、二十六日の本会議には十二人の議員が事務改善、村財政の今後の見通し、水田利用再編対策、農業委員の定数削減、五十九年度予算編成方針などについて一般質問を行い村長らの考えを質しました。

58年度補正予算

都市計画街路・道路改良・橋梁工事など

事業枠減で減額補正

◎昭和五十八年度一般会計補正予算

老人保健特別会計繰出金、職員の給与改訂などを含め、三、二〇〇万九千円を追加、また、都市計画街路、道路改良橋梁事業など国の補助事業枠減に伴い、八、〇四八万六千円が減額され、歳入・歳出予算の総額は、一九億一、三九八万三千円となりました。

おもな補正予算の内容は、老人保健特別会計繰出金二七一万円、村道用地買収費一、〇五〇万円、職員給与費等、一七三万円、

◎監査委員の選任

新しく監査委員に長瀬一夫さん（小杉・63歳）を選任。これは渡辺一監査委員が健康上の都合で辞任したことによるもの。

◎選挙管理委員会委員及び補充員の選挙

十二月三十日で任期満了に伴ない次の方が新しく選ばれました。

。委員　佐藤　登（再）、小林広次（再）、今井己能利（新）、稲村倉二（再）

。補充員　仁多見利衛（再）羽賀勤治（再）、和澄敏雄（新）、村木信弥（新）

◎人権擁護委員の推せん

長瀬正稔さん（小杉・62歳）が渡辺泰脩さんに替って新しく人権擁護委員に推せんされました。

◎昭和五十七年度決算

。一般会計決算（P4・5を参照）

歳入　一九億六、四七一万円
歳出　一九億九七五万円
差引　五、四九六万円の繰越

。国民健康保険特別会計決算

歳入　三億八、一七五万円
歳出　三億六、一一一万円
差引　二、〇六四万円の繰越

。農業共済事業特別会計決算

歳入　一億四、〇九八万円
歳出　一億四九万円
差引　四、〇四九万円の繰越

。下水道事業特別会計決算

歳入　三億五、四一九万円
歳出　三億四、五三三万円
差引　八八六万円の繰越

。老人保健特別会計決算

歳入　一、六八一万円
歳出　一、五二一万円
差引　一六〇万円の繰越

第37回総選挙

横越村の開票結果（得票順）

松沢　俊昭	一、七五七票
佐藤　隆	一、七三四票
栗原　博久	五九一票
稲葉　修	三一五票
渡辺　紘三	二五六票
吉田　正雄	一三一票
木暮　山人	九六票
高沢　健吉	七七票
小日向昭一	四六票
有権者数	六、四二五人
投票者数	五、〇四九人
投票率	七八・五八％

横丁橋

学校と家庭と地域社会にかけ橋を

資源の乏しい日本の国が、今日では世界の経済大国にのし上ったことは驚きの一つである。

しかし乍ら一度異変が起きると、貿易が止まり、産業の停退を引き起す不安がつきまとっている。そうした現況の中に、二十一世紀の繁栄を持続するにはどうすればよいか。一緒になって考えてみよう。

㈠人的資源の開発

先進国は数十年前より、競って人的資源の開発に力を注いでいる。

日本国は人的資源の量においては、世界のどこの国にもひけをとならい。なればこそ世界の経済大国に発展したわけである。

問題は立派な日本人たるの教育をしてきたからである。

㈡青少年の非行は何故増大するのだろう。

いろいろな原因があると思われるが、一つには家庭教育の弱体があげられる。特に高度成長期においては、両親は働くことに専念し、子供は放任され、一方自由のプライバシーから、家庭が干渉されることを嫌い、家庭が孤立していったことである。

一方学校では校舎の中で子供を教育しておればよい、校外のことまで無定量に、手を伸ばされないという、風潮が生れてきた。

いつの日かそうした道を辿って反省期を迎えている。

㈢家庭の教育機能を

教育は家庭の教育を充実させることから始めねばならぬ子供を学校に預けっぱなしでは、本当の子育てには結びつかない。幼い時から体験学習を身につけさせなければならない。

よい挨拶が出来るのも、意欲的な学習をするのも、掃除がよく出来るのも、その源は家庭における体験学習が生み出すことである。

最近「ふるさと」を見直す活動が起されている。

郷土を愛し、郷土の興隆を図る活動はほゝえましい。

そうした動きの中に、家庭と学校そして地域社会を結ぶブリッジ（橋）をかけることが、大切なのではないか、お互いに出し合った構想は、生きて働くことであると思っている。

（板垣）